

# 株式会社 ITS MORE

2020年4月設立

2020年5月19日 投稿者: YSATO@DELEGATE.ORG

## goでQRコード生成（終了）

開発：PNGの生成がgoでサクッとできちゃうことがわかったので、QRコードの生成を考え始めました。規格としては、[JIS X 510:2018](#)です。ざっと眺めたのですが、これは結構骨かなと。

社長：おおー。規格協会がタダで見せてくれるPDFの質もずいぶんまともになったね。以前は劣化したFaxのようだったものですが。

開発：115ページあるし、なんだか気がノリません。原理を説明している仕様書としては面白いと思うのですが、これをただ実装するのって、ジューシーじゃないというか、遊べる隙間が無いと言うか、人生をロスする気がします。

社長：まあうちはとりあえず、ありきたりのQRコードを生成するだけのユーザだからね。ひょっとして、go のライブラリにあったりしないかな。

基盤：調べてみます。

\*\*\* 数分経過 \*\*\*

基盤：ありました。[barcode](#) というパッケージですね。ライセンスはMIT。[Github](#) で配られているんですが、ここって[Goの開発者向けサイト](#)の一環みたいで、今年2020年1月のGoの公式ブログからリンクされてます。で、そのページにある利用例がこれです。

```
package main

import (
    "image/png"
    "os"
```

```
    "github.com/boombuler/barcode"  
    "github.com/boombuler/barcode/qr"  
)  
  
func main() {  
    // Create the barcode  
    qrCode, _ := qr.Encode("Hello World", qr.M, qr.Auto)  
  
    // Scale the barcode to 200x200 pixels  
    qrCode, _ = barcode.Scale(qrCode, 200, 200)  
  
    // create the output file  
    file, _ := os.Create("qrcode.png")  
    defer file.Close()  
  
    // encode the barcode as png  
    png.Encode(file, qrCode)  
}
```

で、これを走らせると、こういうPNGができました。



社長：おお、iPhoneのカメラをかざすと「Hello World」と認識されます。

基盤：「<http://its-more.jp>」で作ると、こんな感じ。見た目にも情報量が増えてますね。



ついでに、空文字列だとこんな感じ。これがミニマムでしょうか。



逆に長い文字列、ここではこのプログラムの LICENSE ファイルの600文字くらいを食わせてみましたが、こんな感じです。



それと、こんなふうにボカしても認識できますね。



開発：おおー、素晴らしい！ これは助かりました。美しい人生よ、限りない喜びよ。

社長：この胸のトキメキをあなたに。やっぱりあったんですね。まあ、そんなこともあるかと思って png-go.com というドメインは取って置きました。ピングゴ！（笑）

基盤：必要なのは QR にちなんだドメイン名ですね。

営業：何かの商売になりますかね？

経理：それって、いつもの安かろうもんのXSOnamae じゃなくて N. Sol. で取ったのはなぜですか？

社長：それがXSOがこのドメインについては何かトラブってましてね、なんか失敗する。で、NSOにいったらさくっと取れまして。XSOの表示の3倍以上の値段でしたねー。さすがドメイン商法の家元！（笑）

経理：… なぜか使われた口座も当社メインバンクじゃなくて、ジャパネット系でした。

社長：それがねー、メインバンクのお上品銀行は、なんか海外送金がダメなんですよ。箱入りなんでしょうかねえ。2行作っというてよかったです。

2020-0519 SatoxITS

goでQRコード生成（終了） —株式会社-ITS-more-1|